

新春挨拶

新年のごあいさつ



衆議院議員
渡辺具能

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、穏やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、振り返りますと昨年は、イラク復興支援特別措置法のもと、日本が国際社会の一員としていかに国際貢献を果たすべきかを、世界から問われ、それに苦悩しながら責任を果たした一年でありました。自衛隊員は堂々と支援活動を現地で行い、イラク暫定政府からもその活動に対して感謝されているところでもあります。三度にわたり日本人を人質にし、自衛隊の撤退を迫るという許すことの出来ない事件が発生し、一名の尊い命まで奪われてしまいました。我々日本はテロリストの要求に屈する事なく、イラク国民が新しい政府の下、平和を取りもどし安心して生活することが出来るよう、苦難を乗り越え今後とも多くの国々と協力して日本の役割を果たしていくべきだと考えております。

一方、国内に目を転じてみますと、年金制度改革で、激しい議論が行われました。現在の日本が抱える少子化高齢化社会の進展の中で、いかに「給付」と「負担」のバランスを保ちながら安心できる老後の生活を確保してゆくか、長期的に持続可能な制度を作りあげていくかという事が重要であります。やはり多少の負担増は、国民全体で

共有せざるを得ないのではないかと痛感しております。引き続き私のライフワークとして子供達の未来の為、安定した社会保障の制度設計の実現に向けて努力して参ります。

また昨年は、台風の上陸が相次ぎその後の新潟中越地震の発生と、自然の脅威を改めて痛感した一年でもありました。早期の復旧の必要性については当然であります。そもそも昨今は公共事業に対しまして、財政再建の必要性の観点からの議論が中心で、予算を削減することがあたかも善であるかのような風潮に大きな危惧を抱いておりました。しかし、あの惨状を目の当たりにし、日頃からの治山・治水事業や海岸の高潮対策そして道路や鉄道や港湾などの耐震事業等の重要性を多くの国民が認識したと思います。特に日本における災害は、いつでも誰でも遭遇する可能性がある問題であり、平素より自然災害への備えが十分出来るよう社会資本整備の重要性を強く訴え、そのために必要な予算の確保と円滑な事業の実施に向けて努力して参ります。

本年も日本再生の為、関係の皆様方と一致協力して国政の場で全力で取り組んで参りたいと存じますので、かわらぬご指導の程よろしくお願い致します。